

郡山高等学校 オーストラリア研修 11 日目報告書

研修 11 日目。久しぶりにひんやりとした朝を迎えました。今日はホストスクール Livingstone Christian College でバディと一緒に過ごす最後の一日となりました。生徒さん達も「最後」と実感してか、日誌には「今まで聞けなかった質問をする」「メールアドレスを聞く」「自分から話題を振る」など具体的な目標が記入されおり、親交を深めたいという気持ちが伝わってきました。

オーストラリアの学校ではお昼が 13 時からとなり、午前中の授業の合間に Morning Tea という 25 分間の長めの休憩をとります。そこから、貴校生とバディとの交流の時間がスタートし、フルーツやスナックなどの軽食を一緒に取ります。休憩時間ということで、バディも芝生の上で横になったり、お友達とお喋りに夢中になったり各自自由に過ごすのですが、その中でもある生徒さんの行動が印象に残りました。バディの中には勿論人見知りや、恥ずかしがり屋な子もおり、沈黙が続き、距離を縮めるのに苦戦するという生徒さんは多くいらっしゃいます。その生徒さんのバディも、良い意味でお客様扱いをせず、フランクに接してくれていました。どうするのかなと思って見ていると、彼女はペンとメモを手バディのもとへ。そして、アドレスを交換し、写真を一緒に撮り、嬉しそうにバディと笑っている姿を見て、ただただ凄いなと感じました。一言声をかけるのも、彼女にとっては勇気のいる行動だったはず。しかし、一歩そこから踏み出したことで、バディも貴校生に関心を示し、会話が生まれました。どこに行っても、どんな場所でも、「積極性」は求められますので、今回の経験を日本に帰ってから活かして欲しいと思います。

午後は、修了証書授与式。LCC の校長先生もいらっしゃり、貴校生に歓迎の意を示して下さいました。その後は、バディに向けてのプレゼントと、歌、ダンスの発表です。躍動感溢れるよさこいダンスの発表では、バディだけでなく、LCC のスタッフの方からも手拍子が起こるほどの盛り上がりを見せました。一人一人修了証書を受け取った後は、日向先生の感動的なスピーチでフィナーレとなりました。

そして、いよいよバディとお別れの時間がやってきました。残された時間を惜しむように、写真を撮ったり、SNS を交換したりと、バディと積極的に交流する姿が見られました。また、ここでも 1 つのドラマが生まれます。バディの中には、授業を抜けられない子もおり、このセレモニーに参加できないバディも何名かいました。そんな中、2 名の生徒さんが、ヨハナ先生とピータ先生の元へ。バディにお手紙を書いたので、渡したいとの事。お二人もバディがどこの教室で授業を受けているのか分からないので、お手紙を預り、後日お渡しすることを提案されました。しかし貴校生は、直接会ってしっかり「お別れ」をしたいのです。その思いをもう一度、先生方へお話しし、10 分だけ時間をもらい、バディを探しに行くことに。バディを見つけた瞬間、きつくハグをする生徒さんの姿がとても印象的でした。お互いの目から涙が止めどめなく流れます。例え数日であっても、お互いに歩み寄り、親交を深めたからこそ、この様な感動が生まれました。異国の地で、そして 10 代に出会った友人は、特別でかけがえのないものです。一期一会の出会いですので、大切にしたいです。

いよいよ明日は現地での活動最終日を迎え、クイーンズランド大学を訪問します。最後まで安

全にツアーが催行できるよう、サポートさせていただきます。

以上、研修 11 日目の報告と致します。



